

平成30年度学校評価の概要

前年度の重点目標	1 授業や家庭学習の充実により確かな学力を身に付け、進路目標の実現を目指す。 2 他者を思いやる心を育み、学校内外におけるマナーの向上を図る。特に交通マナー、情報モラルの指導には留意し、学校組織全体で取り組む。 3 学習活動、部活動、学校行事の三位一体となった学校教育活動の充実を図りつつ、勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止に努める。		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	<ul style="list-style-type: none"> P T Aとの連携の強化 生徒・職員の防災意識向上と災害時の初動体制の確認 	<ul style="list-style-type: none"> P T Aの委員会活動の支援。 学校教育活動への参加及び支援のためのコーディネイト。 避難訓練や防災講話の実施及び初動体制の徹底。家庭との連携による生徒の安全確保。 	<ul style="list-style-type: none"> 各委員会活動の主体的活動が充実してきた。公開授業出席者も昨年度よりやや増加した。 避難経路に障害物を設けるなど、より実践的な避難訓練を実施できた。 防災マニュアルの本格的改訂が必要。
教務部	<ul style="list-style-type: none"> 今後の国際理解コースへ向けての対応 教室環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 学校設定科目の学習の充実及びC A L L教室等の整備。 各教室の授業環境を把握し、円滑な学習活動のための特別教室の利用計画を検討。 	<ul style="list-style-type: none"> 国際理解教育委員会を実施し、授業はじめ諸活動の検討を行った。 保護者からの要望を受け、他の予算を切り詰めて机と椅子を新規に購入し、学習環境の整備に努めた。
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> 各学年におけるキャリア教育の充実 大学入学共通テストに向けた校内体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 進路行事、総合学習や面接を通して将来の明確な目標をもてるように支援する。 各種研究会等への出席による情報収集と対策の検討及び調査書作成システムの構築 英語外部試験の実施と研究 	<ul style="list-style-type: none"> 1年次から継続的にキャリア教育を実践し、3年次では志望理由書の作成を通して自らの進路について深く考えさせることができた。 英語外部試験の実施は準備が整った。大学入試改革に関する情報については、全職員への周知が不十分である。
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全に対する意識の向上 いじめ防止対策の推進と徹底 自律ある生徒の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 危険を予知し、安全に行動できるようにする。定期的に交通安全指導を実施する。 生徒がいじめ問題について主体的に考える機会を設ける。 面接やアンケートにより、いじめの早期発見・早期対応を図る。 生徒が自ら考えて行動し、ルールを守れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故件数は昨年度を上回った。交通マナーは、注意喚起や巡回を行って一定の成果はあるが、より効果的な指導法を検討したい。 いじめアンケートの内容や回数を検討し、未然防止を図る。 服装、携帯使用等については、概ね場をわきまえた行動ができています。生活様式の多様化も踏まえ、今後もより良い指導法を検討していく。
保健厚生部	<ul style="list-style-type: none"> 通常清掃の徹底 相談活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 「5 S (整理・整頓・清掃・清潔・スマイル) 運動」をスローガンとし、全校体制で清掃の徹底を図る。 担任会、A M I 調査等を通して問題の早期発見と早期対応を図る。また、S C との連携を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 5 S 運動に全校でしっかり取り組み、清掃状況は良好である。庶務部の協力により、不足していた清掃道具をそろえることができた。 S C との打ち合わせを事前、事後の2回実施し、より具体的な情報交換を行うことよって、きめ細かい助言を受けることができた。
特別活動部	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動の充実 部活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動に対する全校生徒の参加意識の向上。 社会貢献活動の積極的推進。 安全上問題のない環境整備。 効率の良い活動内容。 挨拶、礼儀等の基本的な生活習慣を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会通信を発行するなど、例年以上に積極的な活動ができた。 P T A と連携し、クリーンフェスティバルで清掃活動を実施した。 部活動の設備・器具は段階的に充実しつつある。少ない時間の中で、生徒は前向きに活動している。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
ユネスコ・国際教育部	<ul style="list-style-type: none"> 国際理解教育の充実 ユネスコスクールとしての活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 講演会等の適切な情報発信と通信紙の紙面、内容の充実。 すでに実施されている活動の充実を図るとともに、PTAや部活動とも連携し、ボランティア活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 国際理解通信が充実したものとなるよう内容を吟味した。 11月にジェフ・バーグランド先生の国際理解教育講演会を催した。ユネスコスクールの一因としての自覚を改めて意識する機会となった。
図書部	<ul style="list-style-type: none"> 図書館のパソコンとNoahの更新 来室者数増加を目指した広報活動 	<ul style="list-style-type: none"> 書籍等のデータのバックアップを作成しつつ、Noahにデータを移行する。 図書館だよりを定期的に発行し、新規の広報活動を企画し生徒の関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> データのバックアップ及びNoahへのデータ移行が完了し、円滑な管理が可能になった。 本の紹介コーナーや図書館だより（年10回発行）等により、生徒の関心を引くようにした。
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 安城東高生としての生活の基礎・基本の確立 適切な類型選択 	<ul style="list-style-type: none"> 5分前行動の徹底と部活動への積極的な参加、教科別質問会による学習のアドバイス。 各種講演会の実施や進路だよりの発行による情報提供。面接を通して生徒の意向把握。 	<ul style="list-style-type: none"> 始業5分前の昇降口指導は一定の成果があったと考えられる。 年間を通して学習質問会を実施し、学習のアドバイスを行うことができた。 進路だよりは通算50号を越え、進路選択について情報提供を行った。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 規律ある生活を送り、社会性を身につけさせる。 進路目標を明確化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 昇降口指導や学年集会等による注意喚起。行事における集団の一員としての意識付け。 学部・学科研究を実施、資料を作成し定期的に配付。卒業生による講話。 	<ul style="list-style-type: none"> 規則正しい生活を送るよう指導を継続した。来年度は生活記録等を通じてきめ細かい指導をする必要がある。 受験生としての意識は徐々に高まりつつある。今後は具体的に自身の進路について考える機会を設けていきたい。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 本校生徒としての自覚をもち秩序だった生活を送る。 自己変革の力を身につけ、進路希望を実現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 5分前登校による遅刻減少、身だしなみへの意識向上。 面接等を通して進路目標を明確化させ、意欲を高め、逞しい精神力を身につけさせる。 計画的な学習ができるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 12月以降に遅刻が増加した。体調管理に留意するよう指導する必要がある。 計画的な学習が習慣として定着し、学習時間が増加した。2年間かけて指導してきた成果が現れてきたと言えるが、より早くから本格的な学習を開始させる必要がある。
総合評価	<p>各分掌・各学年が重点目標を設定し、課題解決に向けて取り組んだ。その結果、さまざまな成果を上げることができた。主なものとして以下のことが挙げられる。平成30年度に開設された国際理解コースでは、シンガポール研修、JICA研修、イングリッシュサマーキャンプなど、独自のカリキュラムを実施し、生徒の意欲関心を高めることができた。10月には内閣府主催「東南アジア青年の船」事業において、東南アジア各国のナショナルリーダー30名の訪問があり、トークセッションでは本校生徒によるプレゼンテーション及びディスカッションを行った。3年間を見通したキャリア教育も、各学年の発達段階に応じて、講演会や進路研究等を実施し、3年次においては志望理由書の作成を通して将来のキャリアビジョンを明確化した上での志望校選択を行うことができた。その結果、2019年度入試においては国公立大学、私立大学ともに例年通りの成果を上げ、生徒一人一人が希望の進路を実現することができた。</p> <p>次年度に向けての大きな課題として、平成30年度入学生から始まる高大接続改革、新たに実施される大学入学共通テスト等への対応が挙げられる。平成29年度には全教職員を対象とした研修会を実施し、具体的な対応策の検討を早期から始めることができた。平成30年度末には、英語外部試験等の実施計画は十分な検討を経て本年度から本格的にスタートする予定である。今後も、大学入試センターや各大学からの情報収集、対応策の協議を継続的に行っていきたい。</p>		